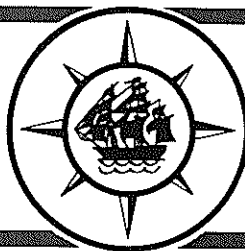


## Operation Raleigh News

Operation  
Raleigh

DENSO

No.36

昭和62年(1987)10月10日(出)  
毎月1回発行●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会  
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号  
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装株式会社のご協力で制作されたものです。

帆船  
ゼブ号

## アフリカ東岸沿いに南下

帆船ゼブ号で、セイシェルからアフリカ東岸にそって航海中の江頭英雄君と一矢好彦君は9月14日(月)11時成田空港発のガルーダ・インドネシア機で出発。ジャカルタ、シンガポール経由でセイシェルのマヘに到着しました。2人は出発前のインタビューに次のように答えてくれました。

——OR応募の動機は？

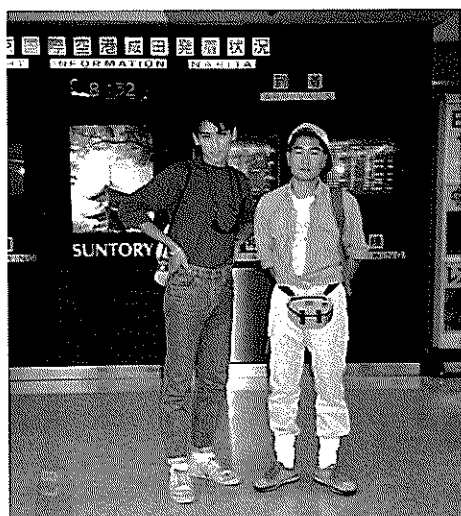
江頭 ORの趣旨に同感し、海外の青年と交流したかったからです。

一矢 自分の可能性を試してみたかったから。

——不安はないか？

江頭 とくに不安はありません。

一矢 新しいことに取り組むときの漠然とした不安感のようなものはあります。



▲成田空港で江頭君・一矢君

——家族、友人の反応は？

江頭 みな驚いていましたが、喜んで協力してくれました。

一矢 激励してくれました。

——参加に当たっての抱負は？

江頭 できるだけ多くの友人をつくりたいと思います。

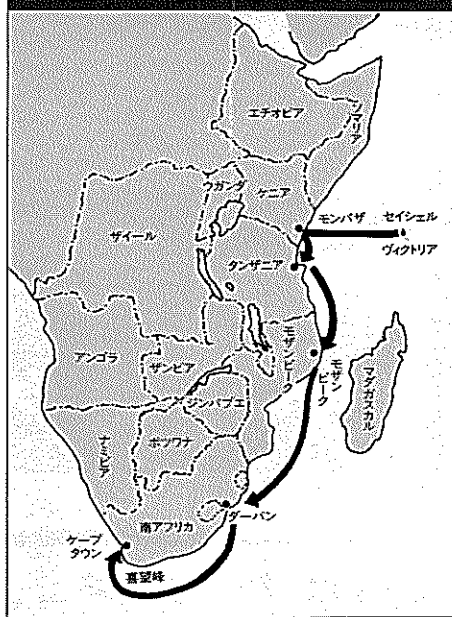
一矢 自分のベストを尽します。

——どんな準備をしましたか？

江頭 造船用語を勉強しました。

一矢 準備の計画を立てるまで。

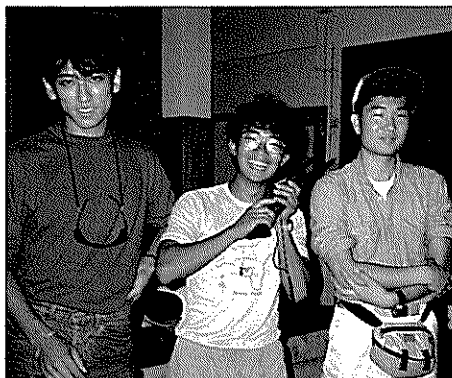
## 帆船ゼブ号アフリカ東岸航路



——やり残したことは？

江頭 大学のレポート。

一矢 計画したことほとんど。



▲セイシェルで渡辺君と一緒に

——現地で主眼にすることは？

江頭 異文化をできる限り感じ、吸収してきたい。

一矢 よく見、よく聞き、よく考えることです。

——帰国後の予定は？

江頭 大学の授業が待っています。

一矢 フェイズ終了後、アフリカひとり旅の予定です。

1988年次  
基本計画決まる

オペレーション・ローリー1988年次活動計画(マスタープログラム)が9月2日付で英国本部から発表されました。( )内は参加ベンチャーの人数です。

- 1~3月=南チリ(100名)
- 2~5月=南米東岸航海(16名)
- 4~6月=ブラジルI(100名)
- 4~6月=パナマII(75名)
- 5~7月=中米→アゾレス(16名)
- 5~8月=アラスカ(40名)
- 6~8月=カナダ(24名)
- 6~9月=ケニアI(100名)
- 7~9月=イギリス(48名)
- 7~10月=ロッキー山脈(55名)
- 7~10月=ブラジルII(100名)
- 7~10月=ポルトガル(30名)
- 7~10月=アパラチャ山脈(55名)
- 7~10月=アゾレス→英国(16名)
- 9~11月=ケニアII(100名)
- 10~1月=タークス諸島(30名)
- 11~2月=バハマII(70名)
- 12~3月=カメルーン(75名)
- 1~4月=バハマIII(30名)

写

# 空と海がどい

## ●ダーウィン

6月下旬、豪州ダーウィンを向けて、インド洋を航海イシエルに到着、9月17日午が撮影してきたインド洋航海



▲日本電装提供のハッピーを着て(7/6・ダーウィン)



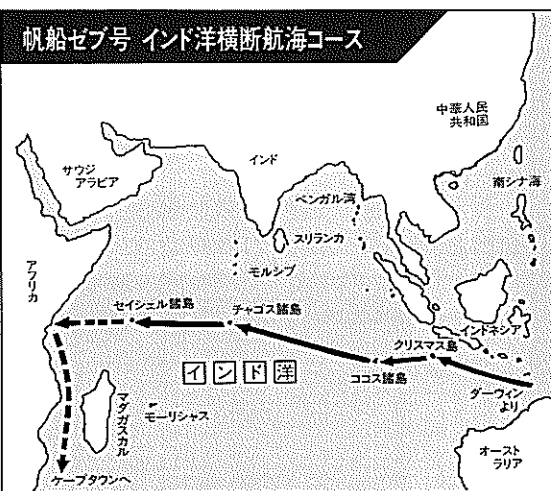
▲ゼブのレリーフを柱に(8/4 ココス諸島)

# 帆船ゼブ号による

# 55日間のインド洋大航海



▲七夕まつり(7/6・ダーウィン)



▲マへの魚市(9/1・セシエル諸島)

## 森田・渡辺両君帰国インタビュー

### 苦勞したのは言葉ぐらい

——ORへの当初のもくろみは？

森田 自分ひとりでは実現できない企画なのでぜひ参加し、その体験を次世代に伝える仕事に生かそうと思いました。

渡辺 異文化への理解、冒険的な旅行体験、フィールド・ワークのノウハウ取得、社会奉仕活動などをめざしました。

——帰国後のORへの評価は？

森田 すばらしい。私にとってはこ



▲船主プロート夫人の誕生日祝い(8/4・ゼブ船内)

れからが問われていると思います。

渡辺 優れた企画ですが、僕の参加したプログラムはほとんどがゼブ号の航海だったので、他のことも体験したいと思いました。

——苦勞したことは？

森田 語学です。

渡辺 言語とライフスタイルです。ただ、船酔いと同じで慣れました。英国人のなかに入り言でも、日本語を使うと嫌がいました。

——楽しかったことは？

森田 すべてが楽しかったで渡辺 船酔いや悪天候も含め海が最高でした。

——異国人とのふれあいでは？

森田 同じ人間だと思いました

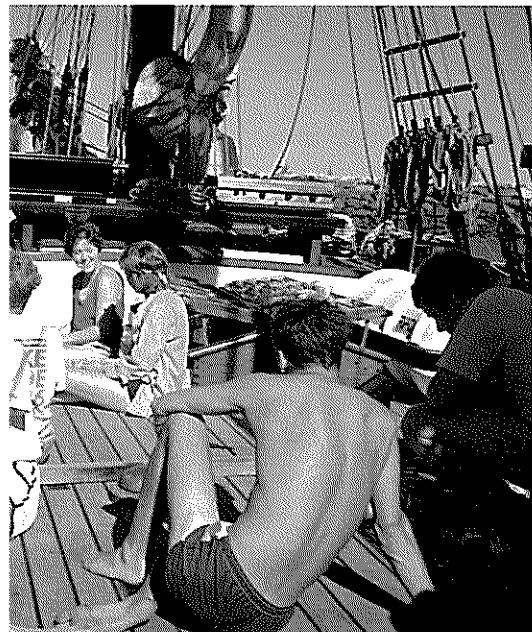
渡辺 理解し合うには相当時かりました。初めは英国流にいましたが、飯炊きなどは

真 特 集

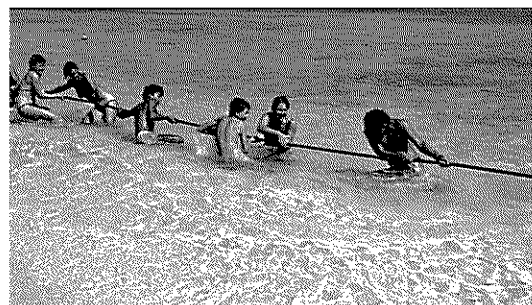
までも続いていた

セイシエルの船旅

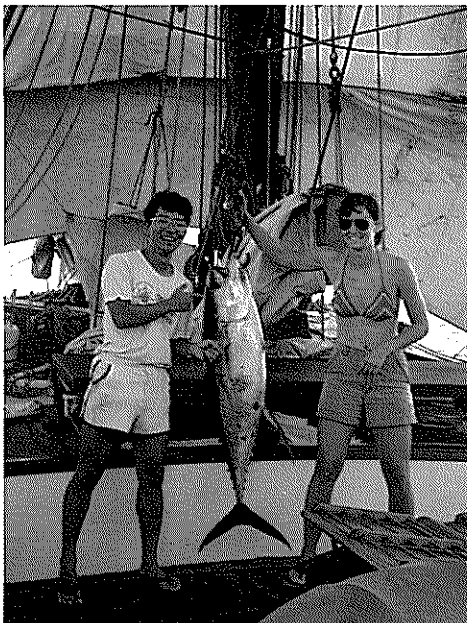
結し、7月7日に帆船ゼブ号でセイシエ  
森田昌之君、渡辺靖彦君は、8月30日セ  
時成田空港に無事帰ってきました。2人  
ナップと帰国後の感想です。



甲板でお茶の時間(ダーウィン)



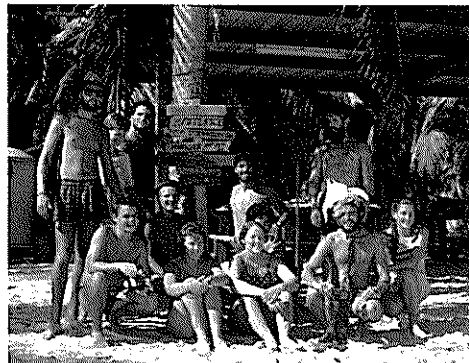
引き大会(8/4・ココス諸島)



▲28kgのマグロ(7/16・クリスマス島近海で)



▲砂浜で運動会(8/4・ココス諸島)



▲ダイレクション島で記念撮影(8/4・ココス諸島)



▲ゼブ甲板で記念撮影(9/15 セイシエル諸島マヘ島)

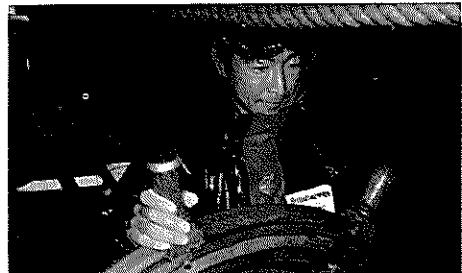
のほうがよいと思ったので、日本式  
にしました。

印象に残る嵐の航海

——印象的だったことは？

森田 嵐のときの航海。

渡辺 自分がウォッチ・キーパーに  
なって指揮を取ったことです。とて



▲雨中ゼブの舵をとる森田君

も興奮しました。

——有意義だったことは？

森田 ココス島での学校訪問、クリ  
スマス島でのフクロウの営巣地調査。

渡辺 すべてが有意義でした。

日本電装に強い関心

——事前にマスターしておきたか  
ったことは？

森田 語学とセイリングの知識。

渡辺 予備知識や能力が不足してい  
ても、問題を解決する努力のほうが大  
切だと思いました。ただ、語学力  
不足で十分議論できなかったことは  
心残りです。

——協賛企業・日本電装への外国

人たちの反応は？

森田 「日本人ベンチャーたちには  
費用の全額を支給しているうえに  
外国人ベンチャーたちにもハッピ  
やTシャツをプレゼントしてくれる  
どれほどすごい企業なんだろう」と  
感じていたようです。

渡辺 非常に強い関心をもっていま  
す。何をしている会社か、ORをど  
うしてこれほどバックアップしてい  
るのか、すべてが驚異なようです。  
とくに、ハッピーやTシャツは好評で  
した。現地の人々もデンソーのこ  
とを説明すると、自分の車にデンソー  
製品が使われているかどうか、早速  
確かめていました。

## 日本代表派遣青年のページ

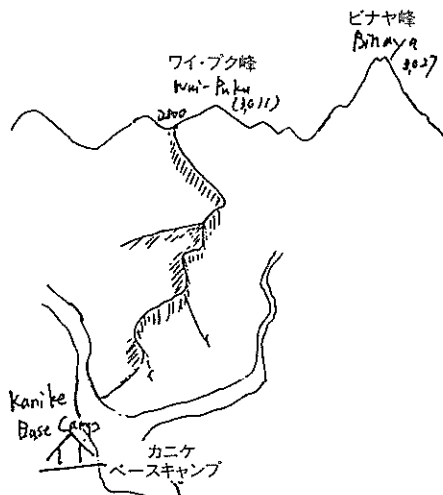
7月からインドネシア・フェイズに参加している村橋靖之君と同じくマレーシア・フェイズに参加している飯島京太君からORJCに便りが寄せられました。

# セラム島 最高峰 ビナヤに登頂

インドネシア・フェイズの村橋君

## 「蛾」の採集に参加

日本はもうすっかり秋の頃ですね。私はここインドネシア、セラム島で毎日元気に過ごしています。こちらの様子（ベースキャンプのこと、気候など）は既に他のメンバーが報告していることと思いますので、私は自分の参加した2つの科学プロジェクトのうち、特に印象深かった蛾の採集プロジェクトについて書きたいと思います。その活動の中心はカニケで、私たちはセラム島最高峰のビナヤ峰に入って、科学者を手伝いました。一口に蛾といっても実に多くの種類があることに驚きました。このプロジェクトはその内容もさることながら、メンバーが最高でした。



ビナヤ峰8泊分の荷物は全部自分たちで運び上げたのですが、私は人呼んで「Water Carry Man」。25ℓの水が入ったタンクを毎日運んでいました。このプロジェクトでは自分の体力を十分発揮することができ満足しています。このビナヤ峰は私が2つのプロジェクトを通じて15日間を

過ごした場所で、この山を抜きにORは語れません。ビナヤは本当によい山で、その姿、登りこたえともに申しぶんありません。最初にこの山に登った8月6日は前日までの雨がウソのような、素晴らしい好天に恵まれ、3,027mの頂上に立つことができました。快晴、360度の大パノラマ、遠く続く南北の海岸線……。何も言うことはありません。山好きの自分には本当にこたえられないものでした。その後4回この山に入り、今ではガイドだってできると思います。最後にワイ・ブク峰(3,011m)に登った日のことは、今でも鮮明に覚えています。眠下には限りなく雲海が広がり、強風がうなり、空は真っ青、ビナヤが夕陽に黒々とそびえまるで私が来るのを待っていてくれたかのような様子でした。私はその景色の中に一人たたずみ、大声でビナヤに別れを告げました。

## マヌセラで奉仕活動

今は3番目のプロジェクトとして米山君たちから引き継いだマヌセラでの学校作りの奉仕活動に取り組んでいます。いまだに基準すらできていないという状態ですが、ようやく道具や物資がそろい、仕事もはかどり始めました。でもちょっと完成は無理なようです。それでもできるだけ完成に近づけるように、毎日一日中泥と汗にまみれ頑張っています。村の人たちも大変親切で、気候の面でもカニケよりも快適です。もうすぐソレアで他の日本人メンバーと合流する予定なので、その日を楽しみにしています。

ORもいよいよ残すところあと3

週間になりました。時には日本をなつかしく思うこともあります。次第にインドネシアが、この島が、この素朴さが好きになって、ここを離れることが少し寂しく感じられる今日この頃です。

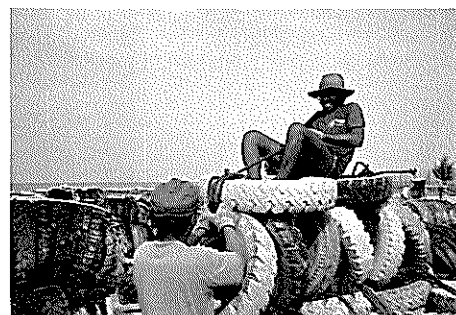
(9月5日/村橋靖之)

## 古タイヤで漁礁づくり

マレーシア・フェイズの飯島君

タンブナンでのコミュニティ活動を終え、第3のプロジェクトのために今はサバ州サビ島にいます。ここは歩いて20分程で一周できる小さな島です。ここでの日課は、午前中が対岸のコタ・キナバルで古タイヤを使った魚礁の建設、午後は島に戻って海中生物の生態調査とオニヒトデ駆除のためのダイビングです。実は私の3番目の活動地はジョホール州ティンギ島のはずだったが、ここに変更になったのです。そのためランビール、タンブナンと2ヵ月近く一緒に暮らした仲間と別れることになり、見送りの時には数人の仲間が泣き出してしまい、私も必死に涙をこらえていました。

(9月11日/飯島京太)



▲古タイヤを使った魚礁づくり